

第454回鉄鋼流通問題懇談会

2021年7月29日（木）14:30
Microsoft Teams によるリモート開催

議 題

△経済産業省新任担当官 ご紹介 松野大輔 金属課長
△ ” 佐藤俊輔 金属課長補佐

1. 配布資料説明（全鉄連）

2. 全鉄連情勢報告

（1）地区の状況

○東京、大阪地区概況報告

（2）その他地区の概況

○鉄流懇7月例会で発表の各地区業況アンケート結果

（3）総括：阪上全鉄連会長

○次回以降会議予定

2021年10月27日（水）14:30～ 於：茅場町「鉄鋼会館802+803+804」

※新型コロナウイルス感染症状況により会議形式など変更になる場合がございます。

予めご了承くださいるようお願いいたします。

3. 意見交換
4. 経済産業省挨拶
5. 鉄流懇会長挨拶
6. その他

鉄鋼流通問題懇談会 品種別動向について（2021年7月）

発表項目	1. 鉄動向（概況）	鋼管	金属材料	薄板	住友商事グローバルメタルズ	厚板	棒鋼・形鋼						
<p>（店売り分厚）上期の出荷量はコロナ影響を大きく受けた昨年度比で+10%程度増加しているが、19年比では▲10-20%減少している状況。他方、下期販売は高まっているが、高炉・溶協共におり期待感が高まっているが、高炉・溶協共に供給が逼迫している状況で、特約店の在庫積み増しが困難な状況。また、高炉・溶協共に値上げ基調を強めており、21年秋迄の50円/kg値上げに向け、21年1-6月迄で概ね20円/kg値上げを実行済み。</p>	<p>＜建業・土木＞4月の新設住宅着工戸数は、前年同月比7.1%増の7万4,521戸で、2カ月連続の増加。分譲は0.3%減少、持家は8.8%増加、貸家は13.6%増加し、全体でも増加となった。</p> <p>＜自動車＞3月の国内生産台数は、前年同月比4.9%増の86万9,000台だった。3カ月ぶりのプラス。乗用車とトラック共に前年同月比で増加した。03M各社、上期の半導体不足影響の減産分を、下期で挽回する計画ではあるが、先行きは不透明。</p> <p>＜建機＞4月の建設機械出荷金額は、内需は1.7%減りの576億円、外需は67.2%増加の1,494億円となった。その結果、内需は4カ月連続の減少、外需は6カ月連続の増加となった。総合計では37.6%増加の2,069億円となり、6カ月連続の増加となった。</p> <p>＜造船＞16月の船舶受注・造船発注は、受注3隻、起工22隻、竣工1隻、竣工船545億円(前年同月比▲50.0%減)であった。</p>	<p>2021年5月の薄板三品在庫は、前月比で22万2千トン増の390万6千トンとなった。昨年8月以来、9カ月ぶりに390万トン台となった。在庫内訳は、メーカ在庫が前月比95千トン増の181万4千トン、問屋在庫が同6万6千トン増の80万トン、コイルセンター在庫が同6万1千トン増の129万2千トンとなった。在庫率は2.33ヶ月となり、前月比2.17ヶ月からは若干上昇したものの、20年度下期平均2.27ヶ月と同レベルの水準で推移しており、相場に変化はない。</p> <p>5月の全国のコイルセンター出荷量は100万トンで、自国産よりも大きな変化はなく生産と出荷がバランスした状態が続いている。</p>	<p>2021年5月の自動車国内販売は、31万9千台（前年同月比46.3%増）と、昨年10月以降8ヶ月連続で前年比プラスとなっている。乗用車が23万8千台（同48%増）、トラックが5万5千台（同30.2%増）となった。5月の民生用電気機器の内出荷金額は、2,130億円、前年同月比109.5%と8ヶ月連続のプラス、ルームユアーク、電気洗濯機は8カ月の連続のプラス、電気冷蔵庫も2カ月の連続のプラスとなった。外出口産に、エアコン需要が継続している。また消費者の健康意識の高まりから、空気清浄機も引き続き高水準となり、5月単月として過去最高の出荷金額となった。国内交通用車に代表される5月の新設住宅着工戸数は17万戸（前年同月比9.9%増）であった。3月以降、3ヶ月連続で前年同月比プラスに転じても、前々年対比では3.3%のマイナス、持家は前年同月比16.2%増と7カ月連続増加。貸家は同4.3%増の3ヶ月連続増加（また、季節調整済年率換算値では前月比0.9%の減少と、5カ月ぶりの減少となった。）</p>	<p>5月の薄板三品輸入量は23万5千トン（前年同月比9.1%増）であった。主要品種別では、熱延鋼板が8万6千トン（同12%減）、冷延鋼板が7万5千トン（同18.9%増）、亜鉛めっき鋼板が7万4千トン（同35.5%増）となっている。5月末の輸入岸壁在庫は13万1千トンで、前月比で4千トン増となり5か月連続の増加、前年同月比では22.9%の減少。</p>	<p>2021年5月鋼管輸出量 継目無鋼管：8,482トン（前月比▲18.7%） 溶接鋼管：1万8,546トン（前月比▲8.7%） 2021年5月鋼管輸入量 継目無鋼管：1,297トン（前月比▲20.6%） 溶接鋼管：9,648トン（前月比▲1.2%）</p>	<p>2021年5月の薄板三品在庫は、前月比で22万2千トン増の390万6千トンとなった。昨年8月以来、9カ月ぶりに390万トン台となった。在庫内訳は、メーカ在庫が前月比95千トン増の181万4千トン、問屋在庫が同6万6千トン増の80万トン、コイルセンター在庫が同6万1千トン増の129万2千トンとなった。在庫率は2.33ヶ月となり、前月比2.17ヶ月からは若干上昇したものの、20年度下期平均2.27ヶ月と同レベルの水準で推移しており、相場に変化はない。</p> <p>5月の全国のコイルセンター出荷量は100万トンで、自国産よりも大きな変化はなく生産と出荷がバランスした状態が続いている。</p>	<p>2. 需要産業動向</p>	<p>＜建業・土木＞4月の新設住宅着工戸数は、前年同月比7.1%増の7万4,521戸で、2カ月連続の増加。分譲は0.3%減少、持家は8.8%増加、貸家は13.6%増加し、全体でも増加となった。</p> <p>＜自動車＞3月の国内生産台数は、前年同月比4.9%増の86万9,000台だった。3カ月ぶりのプラス。乗用車とトラック共に前年同月比で増加した。03M各社、上期の半導体不足影響の減産分を、下期で挽回する計画ではあるが、先行きは不透明。</p> <p>＜建機＞4月の建設機械出荷金額は、内需は1.7%減りの576億円、外需は67.2%増加の1,494億円となった。その結果、内需は4カ月連続の減少、外需は6カ月連続の増加となった。総合計では37.6%増加の2,069億円となり、6カ月連続の増加となった。</p> <p>＜造船＞16月の船舶受注・造船発注は、受注3隻、起工22隻、竣工1隻、竣工船545億円(前年同月比▲50.0%減)であった。</p>	<p>2021年5月の薄板三品輸入量は23万5千トン（前年同月比9.1%増）であった。主要品種別では、熱延鋼板が8万6千トン（同12%減）、冷延鋼板が7万5千トン（同18.9%増）、亜鉛めっき鋼板が7万4千トン（同35.5%増）となっている。5月末の輸入岸壁在庫は13万1千トンで、前月比で4千トン増となり5か月連続の増加、前年同月比では22.9%の減少。</p>	<p>2021年5月の薄板三品在庫は、前月比で22万2千トン増の390万6千トンとなった。昨年8月以来、9カ月ぶりに390万トン台となった。在庫内訳は、メーカ在庫が前月比95千トン増の181万4千トン、問屋在庫が同6万6千トン増の80万トン、コイルセンター在庫が同6万1千トン増の129万2千トンとなった。在庫率は2.33ヶ月となり、前月比2.17ヶ月からは若干上昇したものの、20年度下期平均2.27ヶ月と同レベルの水準で推移しており、相場に変化はない。</p> <p>5月の全国のコイルセンター出荷量は100万トンで、自国産よりも大きな変化はなく生産と出荷がバランスした状態が続いている。</p>	<p>2021年5月の薄板三品輸入量は23万5千トン（前年同月比9.1%増）であった。主要品種別では、熱延鋼板が8万6千トン（同12%減）、冷延鋼板が7万5千トン（同18.9%増）、亜鉛めっき鋼板が7万4千トン（同35.5%増）となっている。5月末の輸入岸壁在庫は13万1千トンで、前月比で4千トン増となり5か月連続の増加、前年同月比では22.9%の減少。</p>	<p>2021年5月の薄板三品輸入量は23万5千トン（前年同月比9.1%増）であった。主要品種別では、熱延鋼板が8万6千トン（同12%減）、冷延鋼板が7万5千トン（同18.9%増）、亜鉛めっき鋼板が7万4千トン（同35.5%増）となっている。5月末の輸入岸壁在庫は13万1千トンで、前月比で4千トン増となり5か月連続の増加、前年同月比では22.9%の減少。</p>	<p>2021年5月の薄板三品輸入量は23万5千トン（前年同月比9.1%増）であった。主要品種別では、熱延鋼板が8万6千トン（同12%減）、冷延鋼板が7万5千トン（同18.9%増）、亜鉛めっき鋼板が7万4千トン（同35.5%増）となっている。5月末の輸入岸壁在庫は13万1千トンで、前月比で4千トン増となり5か月連続の増加、前年同月比では22.9%の減少。</p>
<p>3. 輸出入動向</p>	<p>2021年5月の鋼管輸出量 継目無鋼管：8,482トン（前月比▲18.7%） 溶接鋼管：1万8,546トン（前月比▲8.7%） 2021年5月鋼管輸入量 継目無鋼管：1,297トン（前月比▲20.6%） 溶接鋼管：9,648トン（前月比▲1.2%）</p>	<p>5月の薄板三品輸入量は23万5千トン（前年同月比9.1%増）であった。主要品種別では、熱延鋼板が8万6千トン（同12%減）、冷延鋼板が7万5千トン（同18.9%増）、亜鉛めっき鋼板が7万4千トン（同35.5%増）となっている。5月末の輸入岸壁在庫は13万1千トンで、前月比で4千トン増となり5か月連続の増加、前年同月比では22.9%の減少。</p>	<p>2021年5月の薄板三品在庫は、前月比で22万2千トン増の390万6千トンとなった。昨年8月以来、9カ月ぶりに390万トン台となった。在庫内訳は、メーカ在庫が前月比95千トン増の181万4千トン、問屋在庫が同6万6千トン増の80万トン、コイルセンター在庫が同6万1千トン増の129万2千トンとなった。在庫率は2.33ヶ月となり、前月比2.17ヶ月からは若干上昇したものの、20年度下期平均2.27ヶ月と同レベルの水準で推移しており、相場に変化はない。</p> <p>5月の全国のコイルセンター出荷量は100万トンで、自国産よりも大きな変化はなく生産と出荷がバランスした状態が続いている。</p>	<p>2021年5月の薄板三品輸入量は23万5千トン（前年同月比9.1%増）であった。主要品種別では、熱延鋼板が8万6千トン（同12%減）、冷延鋼板が7万5千トン（同18.9%増）、亜鉛めっき鋼板が7万4千トン（同35.5%増）となっている。5月末の輸入岸壁在庫は13万1千トンで、前月比で4千トン増となり5か月連続の増加、前年同月比では22.9%の減少。</p>	<p>2021年5月の薄板三品輸入量は23万5千トン（前年同月比9.1%増）であった。主要品種別では、熱延鋼板が8万6千トン（同12%減）、冷延鋼板が7万5千トン（同18.9%増）、亜鉛めっき鋼板が7万4千トン（同35.5%増）となっている。5月末の輸入岸壁在庫は13万1千トンで、前月比で4千トン増となり5か月連続の増加、前年同月比では22.9%の減少。</p>	<p>2021年5月の薄板三品輸入量は23万5千トン（前年同月比9.1%増）であった。主要品種別では、熱延鋼板が8万6千トン（同12%減）、冷延鋼板が7万5千トン（同18.9%増）、亜鉛めっき鋼板が7万4千トン（同35.5%増）となっている。5月末の輸入岸壁在庫は13万1千トンで、前月比で4千トン増となり5か月連続の増加、前年同月比では22.9%の減少。</p>	<p>4. 海外市場動向</p>	<p>世界鉄鋼協会がまとめた世界64カ国・地域の5月の粗鋼生産量は、前月比2.9%増、前年同月比16.5%増の1億7,440万トンとなり、10ヶ月連続で前年同月を上回った。国別では中国が前年同月比6%増の9,950万トンと1億2,000トンに迫り、インド、日本、米国も同4割以上増加した。コロナ禍からの経済回復により世界で鉄鋼需要が伸び、今年に入り海外市場は上昇を続けた。5月中旬以降アジアの市場は上昇ペースが停滞したが、中国の鉄鋼生産抑制策によりアジア鋼管需要は今後タイ化に向け、一方で、アジア諸国の直近の感染拡大は逆に作用すると見られる。</p>	<p>5月の輸入通関実績は前月比14千トン減の30千トン。中国からの入荷は無く、韓国が27千トン（前月比13千トン減）、台湾が2.8千トン（前月比0.5千トン減）となった。5月の輸出総量は198千トン（前月比23千トン減）。中国向けは25千トン減、韓国向けはほぼ横ばい、台湾向けは6千トン減、東南アジアではベトナム向け12千トン増、シンガポール向け5千トン減となった。</p>	<p>5月の輸入通関実績は前月比14千トン減の30千トン。中国からの入荷は無く、韓国が27千トン（前月比13千トン減）、台湾が2.8千トン（前月比0.5千トン減）となった。5月の輸出総量は198千トン（前月比23千トン減）。中国向けは25千トン減、韓国向けはほぼ横ばい、台湾向けは6千トン減、東南アジアではベトナム向け12千トン増、シンガポール向け5千トン減となった。</p>	<p>5月の輸入通関実績は前月比14千トン減の30千トン。中国からの入荷は無く、韓国が27千トン（前月比13千トン減）、台湾が2.8千トン（前月比0.5千トン減）となった。5月の輸出総量は198千トン（前月比23千トン減）。中国向けは25千トン減、韓国向けはほぼ横ばい、台湾向けは6千トン減、東南アジアではベトナム向け12千トン増、シンガポール向け5千トン減となった。</p>	<p>5月の輸入通関実績は前月比14千トン減の30千トン。中国からの入荷は無く、韓国が27千トン（前月比13千トン減）、台湾が2.8千トン（前月比0.5千トン減）となった。5月の輸出総量は198千トン（前月比23千トン減）。中国向けは25千トン減、韓国向けはほぼ横ばい、台湾向けは6千トン減、東南アジアではベトナム向け12千トン増、シンガポール向け5千トン減となった。</p>	<p>5月の輸入通関実績は前月比14千トン減の30千トン。中国からの入荷は無く、韓国が27千トン（前月比13千トン減）、台湾が2.8千トン（前月比0.5千トン減）となった。5月の輸出総量は198千トン（前月比23千トン減）。中国向けは25千トン減、韓国向けはほぼ横ばい、台湾向けは6千トン減、東南アジアではベトナム向け12千トン増、シンガポール向け5千トン減となった。</p>
<p>4. 海外市場動向</p>	<p>世界鉄鋼協会がまとめた世界64カ国・地域の5月の粗鋼生産量は、前月比2.9%増、前年同月比16.5%増の1億7,440万トンとなり、10ヶ月連続で前年同月を上回った。国別では中国が前年同月比6%増の9,950万トンと1億2,000トンに迫り、インド、日本、米国も同4割以上増加した。コロナ禍からの経済回復により世界で鉄鋼需要が伸び、今年に入り海外市場は上昇を続けた。5月中旬以降アジアの市場は上昇ペースが停滞したが、中国の鉄鋼生産抑制策によりアジア鋼管需要は今後タイ化に向け、一方で、アジア諸国の直近の感染拡大は逆に作用すると見られる。</p>	<p>5月の輸入通関実績は前月比14千トン減の30千トン。中国からの入荷は無く、韓国が27千トン（前月比13千トン減）、台湾が2.8千トン（前月比0.5千トン減）となった。5月の輸出総量は198千トン（前月比23千トン減）。中国向けは25千トン減、韓国向けはほぼ横ばい、台湾向けは6千トン減、東南アジアではベトナム向け12千トン増、シンガポール向け5千トン減となった。</p>	<p>5月の輸入通関実績は前月比14千トン減の30千トン。中国からの入荷は無く、韓国が27千トン（前月比13千トン減）、台湾が2.8千トン（前月比0.5千トン減）となった。5月の輸出総量は198千トン（前月比23千トン減）。中国向けは25千トン減、韓国向けはほぼ横ばい、台湾向けは6千トン減、東南アジアではベトナム向け12千トン増、シンガポール向け5千トン減となった。</p>	<p>5月の輸入通関実績は前月比14千トン減の30千トン。中国からの入荷は無く、韓国が27千トン（前月比13千トン減）、台湾が2.8千トン（前月比0.5千トン減）となった。5月の輸出総量は198千トン（前月比23千トン減）。中国向けは25千トン減、韓国向けはほぼ横ばい、台湾向けは6千トン減、東南アジアではベトナム向け12千トン増、シンガポール向け5千トン減となった。</p>	<p>5月の輸入通関実績は前月比14千トン減の30千トン。中国からの入荷は無く、韓国が27千トン（前月比13千トン減）、台湾が2.8千トン（前月比0.5千トン減）となった。5月の輸出総量は198千トン（前月比23千トン減）。中国向けは25千トン減、韓国向けはほぼ横ばい、台湾向けは6千トン減、東南アジアではベトナム向け12千トン増、シンガポール向け5千トン減となった。</p>	<p>5月の輸入通関実績は前月比14千トン減の30千トン。中国からの入荷は無く、韓国が27千トン（前月比13千トン減）、台湾が2.8千トン（前月比0.5千トン減）となった。5月の輸出総量は198千トン（前月比23千トン減）。中国向けは25千トン減、韓国向けはほぼ横ばい、台湾向けは6千トン減、東南アジアではベトナム向け12千トン増、シンガポール向け5千トン減となった。</p>	<p>1. 鉄動向（概況）</p>	<p>（店売り分厚）上期の出荷量はコロナ影響を大きく受けた昨年度比で+10%程度増加しているが、19年比では▲10-20%減少している状況。他方、下期販売は高まっているが、高炉・溶協共におり期待感が高まっているが、高炉・溶協共に供給が逼迫している状況で、特約店の在庫積み増しが困難な状況。また、高炉・溶協共に値上げ基調を強めており、21年秋迄の50円/kg値上げに向け、21年1-6月迄で概ね20円/kg値上げを実行済み。</p>	<p>2021年5月の薄板三品在庫は、前月比で22万2千トン増の390万6千トンとなった。昨年8月以来、9カ月ぶりに390万トン台となった。在庫内訳は、メーカ在庫が前月比95千トン増の181万4千トン、問屋在庫が同6万6千トン増の80万トン、コイルセンター在庫が同6万1千トン増の129万2千トンとなった。在庫率は2.33ヶ月となり、前月比2.17ヶ月からは若干上昇したものの、20年度下期平均2.27ヶ月と同レベルの水準で推移しており、相場に変化はない。</p> <p>5月の全国のコイルセンター出荷量は100万トンで、自国産よりも大きな変化はなく生産と出荷がバランスした状態が続いている。</p>	<p>2021年5月の薄板三品輸入量は23万5千トン（前年同月比9.1%増）であった。主要品種別では、熱延鋼板が8万6千トン（同12%減）、冷延鋼板が7万5千トン（同18.9%増）、亜鉛めっき鋼板が7万4千トン（同35.5%増）となっている。5月末の輸入岸壁在庫は13万1千トンで、前月比で4千トン増となり5か月連続の増加、前年同月比では22.9%の減少。</p>	<p>2021年5月の薄板三品輸入量は23万5千トン（前年同月比9.1%増）であった。主要品種別では、熱延鋼板が8万6千トン（同12%減）、冷延鋼板が7万5千トン（同18.9%増）、亜鉛めっき鋼板が7万4千トン（同35.5%増）となっている。5月末の輸入岸壁在庫は13万1千トンで、前月比で4千トン増となり5か月連続の増加、前年同月比では22.9%の減少。</p>	<p>2021年5月の薄板三品輸入量は23万5千トン（前年同月比9.1%増）であった。主要品種別では、熱延鋼板が8万6千トン（同12%減）、冷延鋼板が7万5千トン（同18.9%増）、亜鉛めっき鋼板が7万4千トン（同35.5%増）となっている。5月末の輸入岸壁在庫は13万1千トンで、前月比で4千トン増となり5か月連続の増加、前年同月比では22.9%の減少。</p>	<p>2021年5月の薄板三品輸入量は23万5千トン（前年同月比9.1%増）であった。主要品種別では、熱延鋼板が8万6千トン（同12%減）、冷延鋼板が7万5千トン（同18.9%増）、亜鉛めっき鋼板が7万4千トン（同35.5%増）となっている。5月末の輸入岸壁在庫は13万1千トンで、前月比で4千トン増となり5か月連続の増加、前年同月比では22.9%の減少。</p>

鉄鋼流通問題懇談会（2021年7月）

発表者

メーカー

発表項目

J F E スチール

1. 需給動向（景況感）

（国内）・6月の日銀短観では企業の景況感を表す業況判断指数（DI）が大企業・製造業で+1.4と前回3月調査から+9ポイントとなり、4期連続で改善となった。好調な外需が追い風となり多くの業種で改善が継続する一方で、半導体不足影響を受けた自動車では悪化した。先行きについては+1.3と1ポイントの悪化。コロナ禍における先行き不透明感に加え、原材料価格高騰への懸念も聞かれる。

21年度設備投資計画は大企業では前年度比+9.6%。ウイズ/アウターコロナの経済活動に適応するための設備投資や20年度からの持ち越しがあると考えられる。

- ・家計部門については5月の小売業販売額は前年同月比+8.2%と3ヶ月連続で増加した。但し、前年は14日の緊急事態宣言の時期にあたり、19年5月比では▲5.3%となっている。基調判断は「横ばい傾向にある」と据え置いた。

- ・製造部門では5月自動車生産が半導体影響もあり前月比▲30.4%と大幅減、一方機械受注は+7.8%と3か月連続の増。

- ・建築部門では5月の全建築物建築着工床面積は3か月連続の前年同月比増となった。

（海外）・感染症抑制状況や経済対策により国・地域ごとに濃淡はあるものの、総じて回復している。供給面のネックにより、インフレが進み金融市場の混乱を招く恐れや、新たな変異株の出現可能性など、不透明感は依然として残るもの、リスクは徐々に低減してきている。

米国：経済対策により力強い回復が想定される一方で、労働量等の供給制約からインフレが進み、金融市場の混乱を招く恐れがある。

中国：民間消費と設備投資に支えられ、経済は堅調に推移するが、各政策がインフラや不動産投資をややスローダウンさせる見込み。

ASEAN：域内各国の経済回復は進むが、一部の国でコロナ感染再拡大が見られるなど、ワクチン接種の遅れは懸念材料

<国内鉄鋼需給>

- （生産）・21年6月の粗鋼生産は811万t（前年同月比+44%）と前年同月比で4ヶ月連続の増加となった。
- （出荷）・5月の普通鋼国内向け出荷は321万トン（前年同月比+21%）で3ヶ月連続の増。輸出向け出荷は187万トン（同+21%）と13ヶ月振りに増加に転じた。

- （在庫）・5月末の普通鋼鋼材国内向け在庫は55.1万トン（前月比+26万トン）、2ヶ月連続の増加。

- ・5月末の薄板3品在庫は39.1万トン（同+22万トン）と2ヶ月連続の増加。

- ・5月末の厚板シャワー在庫は36万トン（同+0万トン）とほぼ横ばいも2か月連続の増加。

2. 需要産業動向

〔建築〕・5月の新設住宅着工戸数は7.0万戸（前年同月比+9.9%）で3ヶ月連続の増加。持家・分譲・貸家いずれも増加。

- ・非住宅着工床面積は428万㎡（同+5.3%）で3か月連続の増加。公務文教は減も鉱工業等で増加。

〔自動車〕・6月の国内販売（輸入車除く）は32.8万台（前年同月比+1.9%）。4か月連続のプラス。

- ・5月の完成車輸出は26.7万台（同2.2倍）で3ヶ月連続のプラス。各地域とも大幅な増加となった。

- ・5月の四輪生産（速報）は50.2万台（同+63%）で3ヶ月連続のプラス。ただし前月比では▲2.2万台の大幅減。

〔造船〕・6月の新造船受注量は210万GTの受注、6月末の手持工事量は1,807万GTと8か月連続で増加。

3. 輸出入動向

〔輸出〕・5月の企鉄鋼輸出は278万トン（前年同月比+11.2%）で13ヶ月ぶりの増加。

〔輸入〕・5月の鋼材輸入（普通鋼・ステン鋼・その他合金鋼計）は36万トン（前年同月比▲5.5%）で4か月連続の減少。

韓国は5か月連続で増加したものの、台湾、中国は2か月ぶりに減少に転じた。

4. 海外市場動向

- ・6月の世界粗鋼生産は1億5,898万トン（前年同月比+11.6%）と11ヶ月連続の増加。

- ・6月の中国粗鋼生産は9,388万トン（同+2.5%）。6月中旬以降、環境規制と見られる粗鋼生産抑制の動きあり。（前月比▲557万t）

- ・6月の中国鋼材輸出は646万トン（同1.7倍）増値税還付率引き下げ前の駆け込みが落ち着いた5月から一転して増加（+119万t）

中国政府の関税対策動向を注視。